

公共施設の見直し

施設の現状に関する調査結果

(平成26年度の実施結果)



太田農村体験の里「あか松庵」(太田)



大曲市民会館(大曲)



ふれあい体育館(仙北)



神岡中央公園屋内多目的施設「嶽ドーム」(神岡)



南外生活支援ハウス(南外)



西仙北めぐ森温泉「ユメリア」(西仙北)



まほろば唐松中世の館「能楽殿」(協和)



中仙市民会館「ドンパル」(中仙)

大仙市

平成27年6月
総務課 行政・改革班

公共施設の現状に関する調査結果について

1. 調査の目的

本市が所有する公共施設は、合併前の旧市町村が整備した施設をそのまま引き継いでおり、合併後に設置したものを合わせた全体の施設数は700余りとなっています。

このうち、ハコモノ（建築物）だけでも500を超えており、今後、施設の改修や建て替え、設備機器の更新を実施していく場合、多額の経費が必要になると見込まれます。

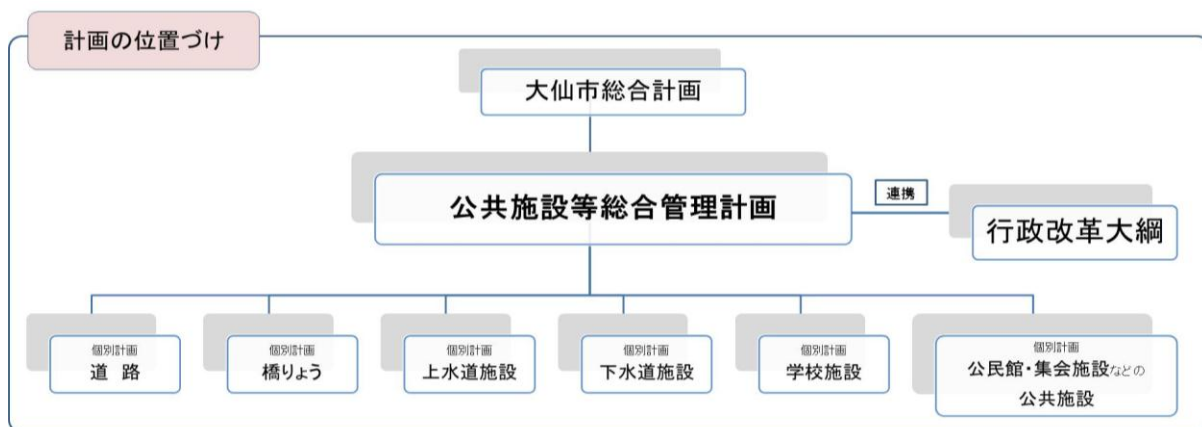
一方、市の財政状況は、人口減少や少子高齢化などに伴う扶助費等の増大、合併特例期間終了による普通交付税の減額などにより、今後ますます厳しくなると予想されることから、全ての公共施設を将来も現行どおり維持管理していくことは困難な状況にあります。

こうしたことから本市では、公共施設を見直しする独自の取組として、施設の規模や経年劣化の状態、利用状況などを把握する調査を平成25年度、26年度の2カ年で進めてきました。

今後はこの調査結果をもとに、将来を見据えた本市の適正な施設のあり方について全庁的な体制で検討を行い、総務省が平成26年4月に全国の自治体へ策定要請した「公共施設等総合管理計画」を、平成28年度中の完了を目指し策定作業を進めていきます。

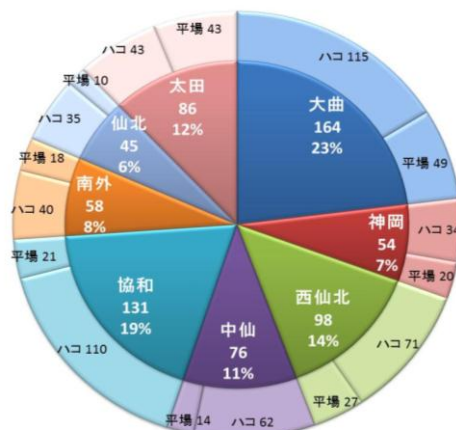
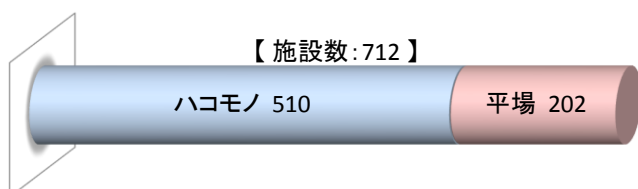
「公共施設等総合管理計画」とは …… すべての公共施設を対象に、施設の老朽化や利用状況、維持管理に必要な経費の見直し等を踏まえ、施設の更新・統合・長寿命化など今後の施設管理の基本方針を記載した計画。計画期間は10年以上とし、固定資産台帳を活用しながら平成28年度まで策定することとされています。

本市は
平成28年度中の策定
として取組を実施



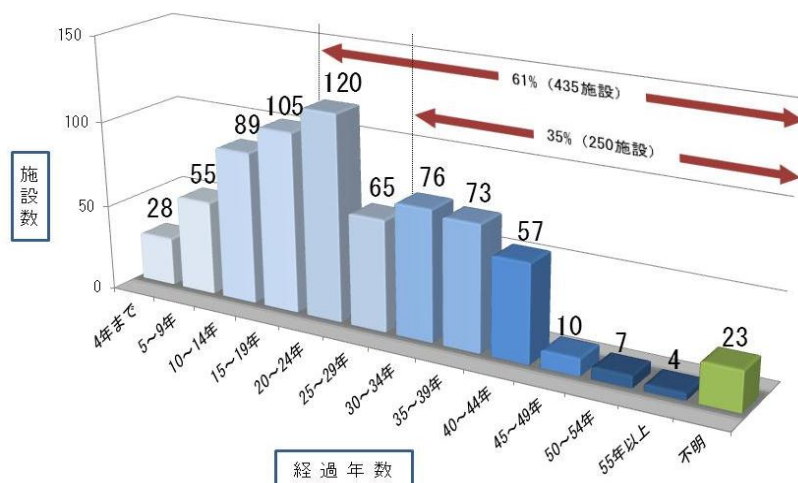
2. 施設の数と経過年数

本市が保有する公共施設の数（道路、橋りょう、上下水道の管渠を除く）は、ハコモノが510施設、放牧場や公園、グラウンド・ゴルフ場などの平場のものが202施設、合わせて712施設になります。



これらの公共施設について、5年単位の経過年数で仕分けすると、現時点で築30年を超える施設は全体の35%（250施設）を占めています。

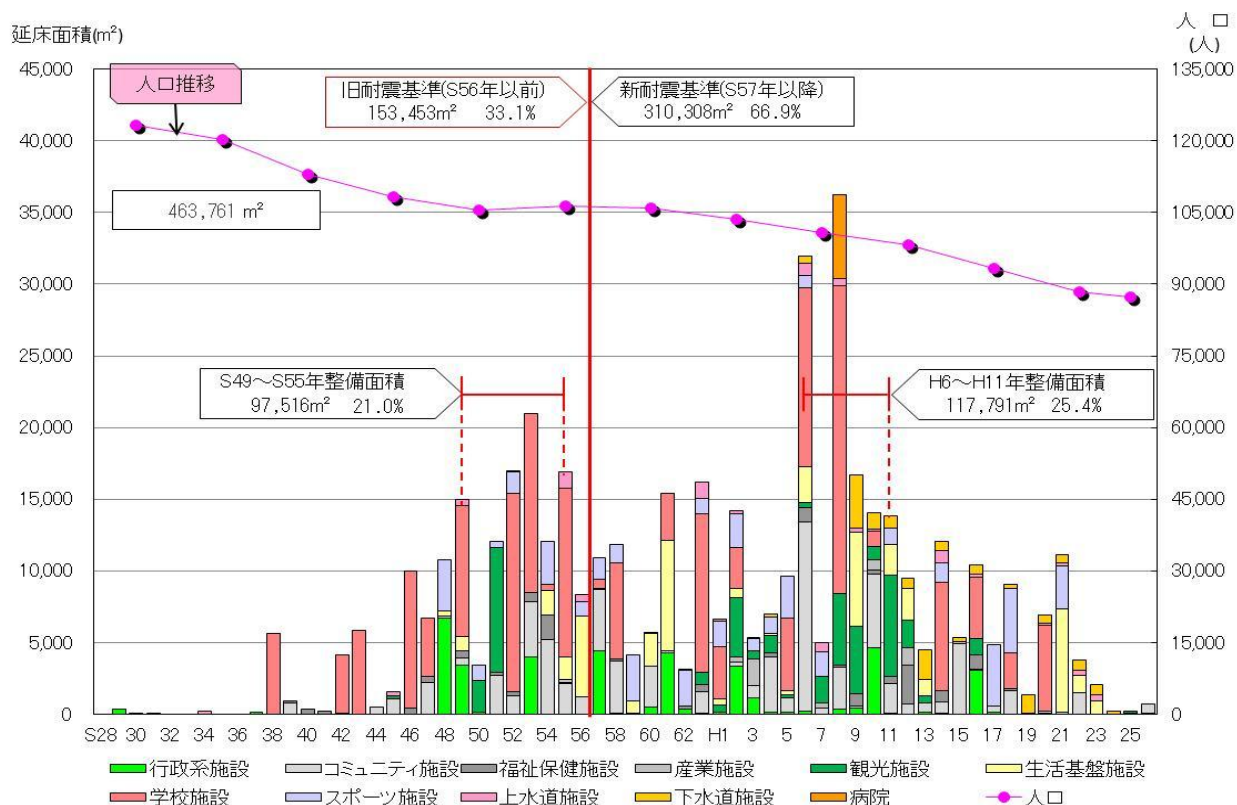
さらに、10年後には61%にあたる435施設が築30年を超えることとなり、改修や建て替え、設備機器の更新を要する施設が一定期間に集中することが予想されます。



3. ハコモノの整備年度別延床面積

ハコモノ510施設について、整備した年度ごとに建物の延床面積を積み上げたものが、下段のグラフになります。

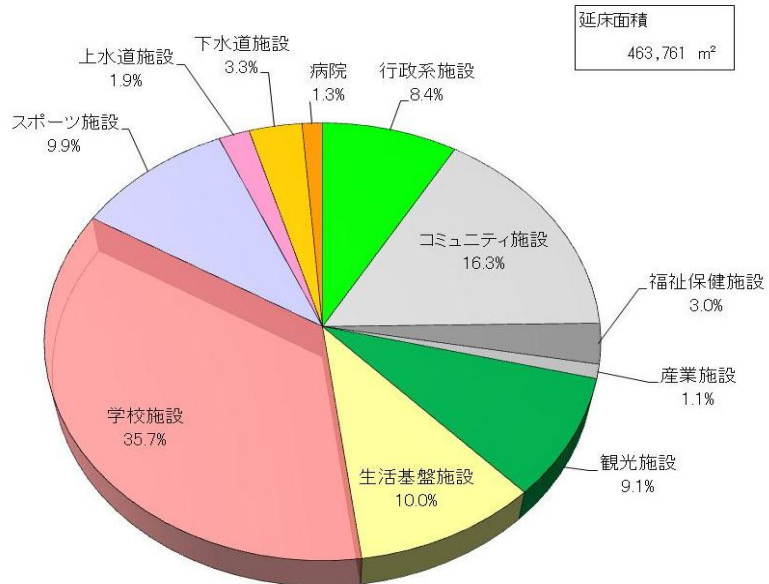
整備した延床面積が多い年度は、高度経済成長期が終わりを遂げ、景気回復基調にあった昭和49年から55年までの7年間と、バブル経済崩壊後の平成6年から11年までの6年間です。また、耐震基準の改正が行われた昭和56年以前の建物は、現在築34年を超えており、かなり経年劣化が進んでいます。すでに改修等により長寿命化を図った施設もあります。



4. ハコモノの用途別延床面積割合

市が整備したハコモノ全体の延床面積は463,761㎡です。

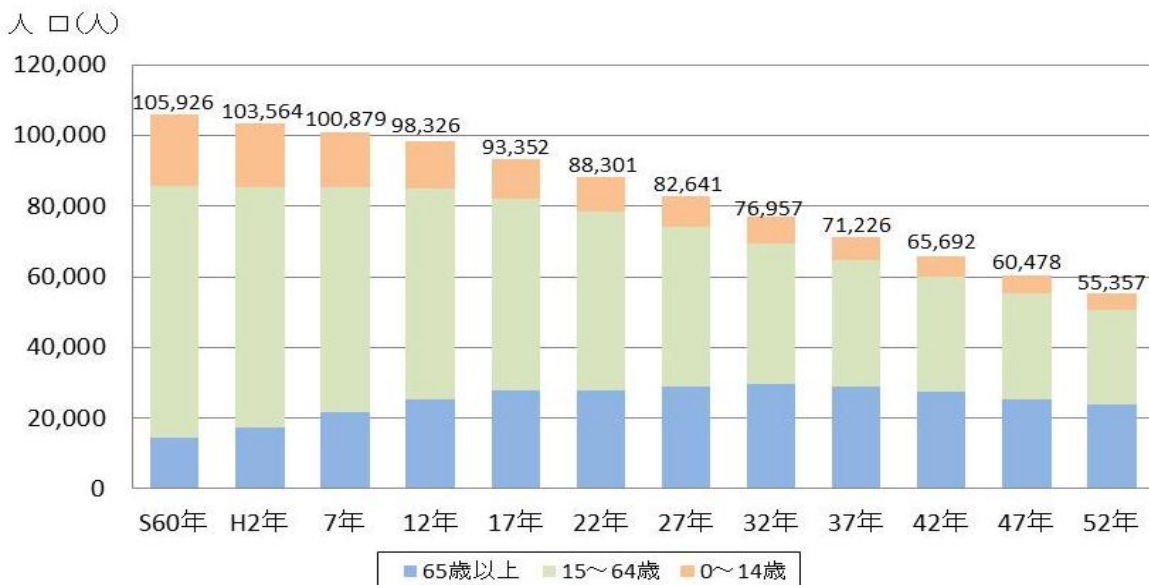
用途別の面積に仕分けすると、全体を占める割合が多いのは、学校や給食センターなどの「学校施設」が35.7%、公民館や集会施設などの「コミュニティ施設」が16.3%、市営住宅や駐車場などの「生活基盤施設」が10.0%、体育館や野球場などの「スポーツ施設」が9.9%の順となっています。



5. 人口の現状と将来推計

本市の総人口は年々減少の一途をたどっており、直近の国勢調査となる平成22年の人口は、88,301人になっています。国立社会保障・人口問題研究所が推計した「日本の地域別将来推計人口」によると、30年後（平成52年）の本市の人口は32,944人減（▲37%）の55,357人になると予想され、さらに人口構成においては、15歳～64歳の生産年齢人口が大幅に減少すると見込まれています。

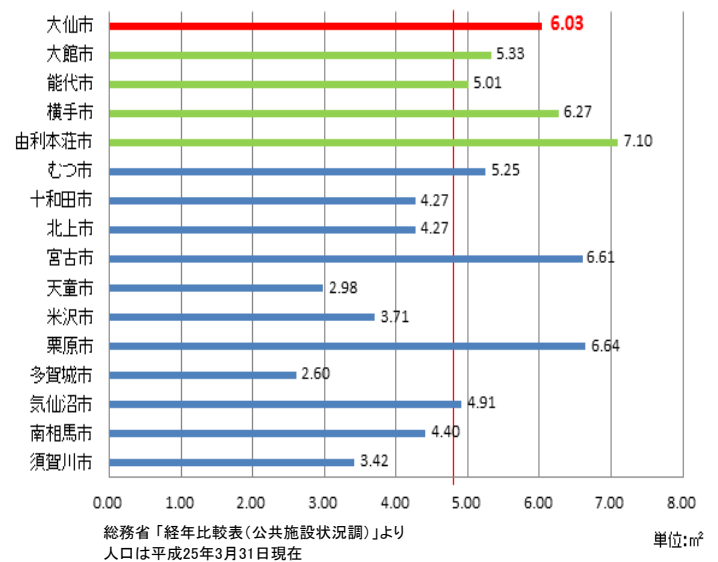
こうしたことから、本市の財政状況は、個人市民税などの税収がますます減る一方、歳出では高齢化の進展等による福祉や医療などの社会保障費の増加により、一段と圧迫する状況が予想され、公共施設の維持更新費に充てる財源の確保は、今以上に難しくなります。



6. 人口一人当たりの延床面積

総務省公共施設状況調によると、平成24年度末の大仙市の人口一人当たり延床面積は6.03㎡で、東北管内の他の類似団体の平均（4.85㎡／人）の約1.24倍となっています。

国立社会保障・人口問題研究所の直近の推計では、30年後（平成52年）の人口は55,357人（約37%減）と見込まれており、現在の保有施設数のままでいくと一人当たりの延床面積は9.61㎡となり、施設数が過剰になると想定されます。



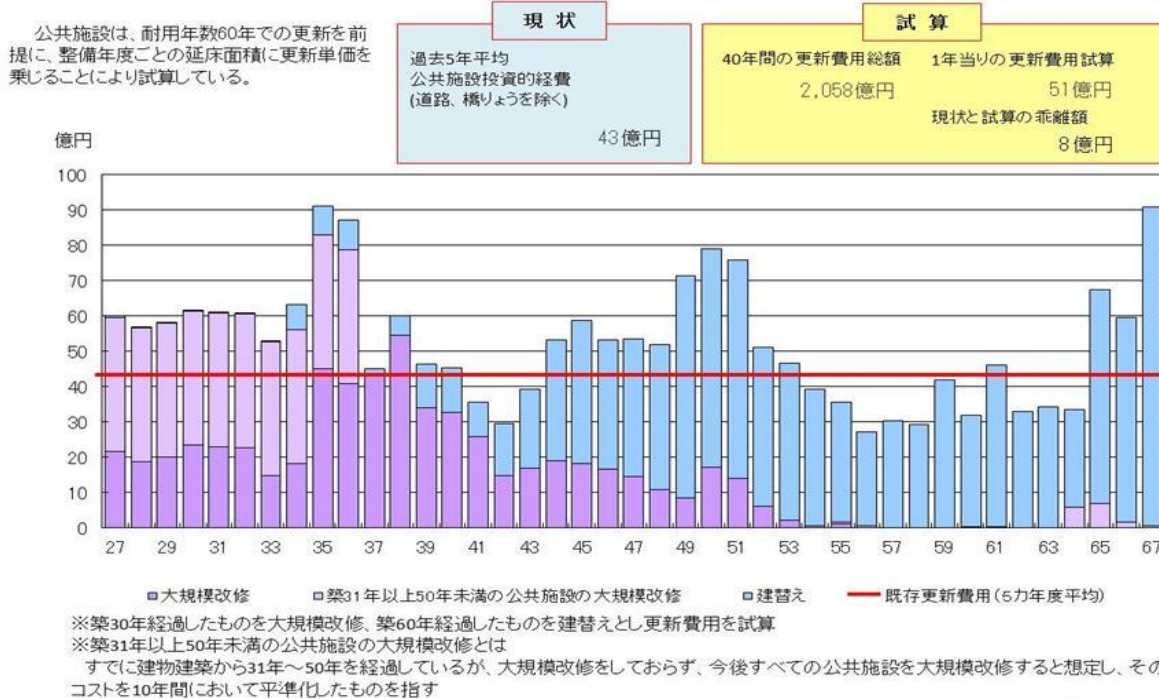
7. 施設分類別運営コスト



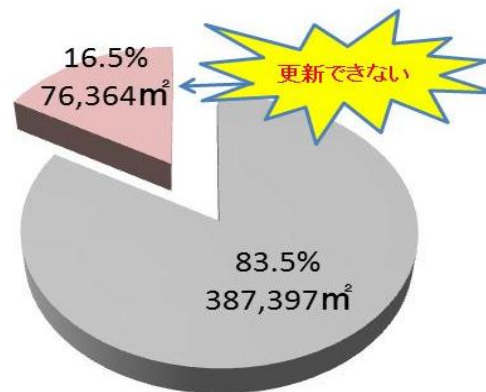
8. 将来の更新経費の試算

総務省提供のソフトを活用し、本市の今後40年間に係る公共施設の改修や建替えに要する経費を試算したところ、総額で約2,058億円、年平均にすると約51億円になります。

道路、橋りょう等を除いた本市の過去5年間の公共施設投資的経費の年平均は約43億円になりますので、この規模を今後も維持できたと仮定しても、年間約8億円が不足すると考えられます。



公共施設の更新経費を試算したところ、今後1年当たりの見込み額は約51億4,000万円、平成21年～25年更新費用の平均は約43億円となり、将来にわたり全ての施設を維持できたと仮定しても、保有する延べ床面積の16.5%（約7.6万㎡（※大曲体育館26個分））を更新できない状況となります。



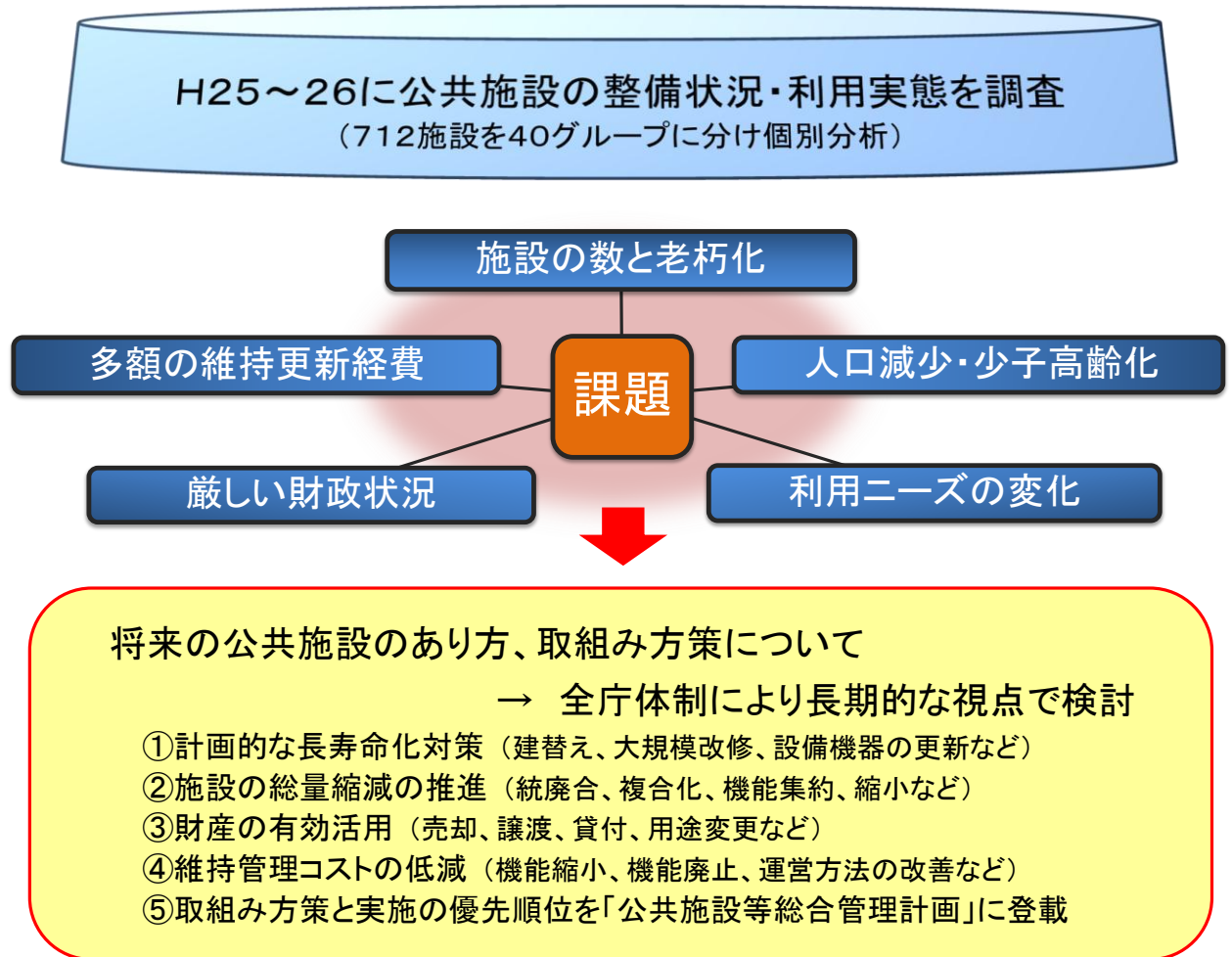
現在約8万8千人の本市の人口は、平成52年には約5万5千人になると推計されており、現在の保有施設数のまま維持・更新した場合、一人当たりの負担額は、現在の48,669円から、約2.0倍の99,406円になる見込みです。

本市では、今後更新時期を迎える公共施設を大量に保有しており、次世代の負担を軽減するため、長期的な視点を持ちつつ、早期に取り組む必要があります。



※現在人口は直近の国勢調査である平成22年の人口を基にし、30年後の人口は、国立社会保障・人口問題研究所が推計する平成52年の人口を基に推計
※30年後の一人当たり更新費用は、総務省提供ソフトにより試算

9. 課題の整理と今後の進め方



10. 調査した施設グループ

No	グループ名	施設数		
		ハコモノ	平場	
1	庁舎	10	10	
2	消防施設	179	179	
3	墓園等施設	15	1	14
4	廃棄物処理施設	7	2	5
5	公民館	26	26	
6	市民会館	5	5	
7	図書館	3	3	
8	集会施設	33	33	
9	交流施設(駅舎等)	7	7	
10	高齢者福祉施設	10	10	
11	子育て支援施設	26	26	
12	保健施設	4	4	
13	農業施設	3	3	
14	畜産施設	17	1	16

No	グループ名	施設数		
		ハコモノ	平場	
15	水産施設	2	2	
16	産業研修施設	4	4	
17	温泉	7	7	
18	宿泊研修施設	4	4	
19	道の駅	3	3	
20	観光施設	19	19	
21	市営住宅	21	21	
22	駐車場・駐輪場	8	2	6
23	公園	125	2	123
24	学校	32	32	
25	給食センター	7	7	
26	体育館	17	17	
27	野球場	13	6	7
28	テニスコート	9		9

No	グループ名	施設数		
		ハコモノ	平場	
29	スキー場	3	3	
30	プール	3	2	1
31	複合体育施設	3	3	
32	武道館	3	3	
33	グラウンド・ゴルフ場	8		8
34	ゲートボール場	4	1	3
35	キャンプ場	3	1	2
36	サッカー場	4		4
37	その他スポーツ施設	5	1	4
38	上水道施設	26	26	
39	下水道施設	33	33	
40	病院	1	1	
計		712	510	202

※複数の機能を持つ建物は、主要施設でカウントした